

安全運転アドバイス

雨天時の運転編

雨天時は路面が滑りやすく、視界も悪くなるなど車の運転には悪条件が重なります。

雨天時の危険を認識し、安全運転につなげましょう。

雨天時の事故率は晴天時の約5倍

※首都高速道路株式会社データ(平成27年度)より

1時間あたり交通事故発生件数



※1時間あたり交通事故発生件数=交通事故発生件数÷時間

注意すべきポイントと対策

1 停まりにくい ●スピードを抑えた運転を心がけましょう



ポイント

- 雨天時の路面は滑りやすく、乾燥した時よりも車の停止距離が長くなります。
- 雨の降り始めは、特に滑りやすいので注意が必要です。(道路上の泥やほこりが雨に混じって、油を引いたような状態になります。)

対策

- ◇スピードを抑え、車間距離を十分に確保しましょう。
- ◇「追越」はスピードの出し過ぎにつながりやすいので、避けましょう。

2 視界が悪い ●安全確認をしっかりと行いましょう



ポイント

- 雨天時は視界が悪いため、危険の発見も遅れやすくなります。
- 側方や後方はガラスやサイドミラーについた水滴で特に見えにくいので、安全確認が不十分になりがちです。

対策

- ◇スピードを抑えるとともに、早めのライト点灯などで、早期に危険を発見し、事故を防ぎましょう。
- ◇バック時は、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で運転しましょう。

3 危険な行動に遭遇する ●歩行者や自転車の動きに注意しましょう



ポイント

- 雨天時の歩行者や自転車は、早く目的地へ行こうと急ぎがちです。また、傘をさすことで視界が狭くなり、車に気づかないことがあります。そのため、安全確認が不十分なまま道路を横断するなどの危険な行動が増えます。

対策

- ◇歩行者や自転車が車に気付いていないと考え、慎重な運転を心がけましょう。
- ◇ライトを積極的に点灯し、自車の存在を知らせましょう。

あたり前のことを確実に行うことが事故防止につながります。ぜひ安全運転をお願いします。